

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
応用講座3④							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名	実務経験			
柔道整復学科・昼間部	2年	4期	川崎 有子	○			
分野区分	教育課程		講義形式	単位	コマ数		
応用分野			座学	1	10		
科目概要							
2年生1期・2期に学んだ柔道整復学の上肢・下肢の骨折について復習する。繰り返し学ぶことでより理解を深め知識の定着を図る。この範囲は柔道整復師として業務を行う上で評価・治療を正しく考察する上で重要な知識である。また各学生が理解し習得するための手助けをしていく授業である。しっかりと理解を深め今後学習する科目に役立てていただきたい。							
目標							
一般目標 (GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	1期・2期で学んだ柔道整復理論の知識を定着させ、今後の学問の理解へ生かすことができるようにする。繰り返し学ぶことで理解を深め、発生機序や骨片転位、症状、整復・固定について暗唱できるようにする。						
	到達目標 (SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	1. 肘・前腕部の骨折について発生機序を理解し説明できる。 2. 肘・前腕部の骨折について骨折の転位を理解し説明できる。 3. 肘・前腕部の骨折の骨折についての症状や予後について理解を深め説明できる。 4. 教科書を読み解く力をつけることができる。 5. 演習問題を読み解く力をつけることができる。 6. 繰り返し勉強する習慣を身につけることができる。					
履修に必要な予備知識や技能							
1年次に学んだ解剖学の肘・前腕部の構造機能の復習は必ず行って受講すること。							
教科書・参考書							
教科書:「柔道整復理論・総論改訂第6版」 参考書:「柔道整復学・実技編改訂第2版」							
受講上の注意							
解剖学の骨・筋・靭帯・関節構造の予習復習は必須。 基本は暗記となるので、短期記憶から中期記憶、中期記憶から長期記憶となるよう、復習を充分に行ってください。 単元ごとに確認小テストを行います。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合 (%)	90	10					100
	確認小テストを行い10%の評価点とする。						
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	前腕近位部骨折(橈骨近位端部骨折) 発生機序・転位・症状・整復法・固定法について理解を深め暗記する。			P274-P277	教科書・筆記用具		
第2回	前腕近位部骨折(肘頭骨折) 発生機序・転位・症状・整復法・固定法について理解を深め暗記する。 橈骨近位端部骨折確認小テスト			P277-P279	教科書・筆記用具		
第3回	前腕骨幹部骨折(橈骨骨幹部骨折) 発生機序・転位・症状・整復法・固定法について理解を深め暗記する。 肘頭骨折確認小テスト			P288-P293	教科書・筆記用具		
第4回	前腕骨幹部骨折(ガリアジ骨折・モンテギア骨折) 発生機序・転位・症状・整復法・固定法について理解を深め暗記する。 橈骨骨幹部骨折確認小テスト			P293-P296	教科書・筆記用具		
第5回	橈・尺両骨骨幹部骨折 発生機序・転位・症状・整復法・固定法について理解を深め暗記する。 ガリアジ骨折・モンテギア骨折確認小テスト			P297-P299	教科書・筆記用具		
第6回	前腕骨遠位部端部骨折(コーレス骨折) 発生機序・転位・症状・整復法・固定法について理解を深め暗記する。 橈・尺両骨骨幹部骨折確認小テスト			P306-P310	教科書・筆記用具		
第7回	前腕骨遠位部端部骨折(スミス骨折) 発生機序・転位・症状・整復法・固定法について理解を深め暗記する。			P306-P310	教科書・筆記用具		
第8回	前腕骨遠位部端部骨折(背側・掌側・ Barton骨折・ショーファー骨折) 発生機序・転位・症状・整復法・固定法について理解を深め暗記する。 コーレス骨折・スミス骨折確認小テスト			P310-P312	教科書・筆記用具		
第9回	定期試験				筆記用具 学生証		
第10回	既習範囲復習				教科書・筆記用具		
実務経験と本講義との関連について							
接骨院、整形外科、介護施設で勤務、現在までの臨床経験を踏まえ臨床で重要な知識を講義していく。							
メールアドレス							
kawasaki@nihonisen.ac.jp							